精華町まち・ひと・しごと創生有識者会議
（地域創生戦略効果検証会議）

議　事　録

平成３０年度　精華町まち・ひと・しごと創生有識者会議

（地域創生戦略効果検証会議）

日時：平成３０年８月２日（木）

１４：００～１６：３０

場所：ＳＥＩＫＡクリエイターズ

インキュベーションセンター

○大原企画調整課長

定刻となりましたので、ただ今から、平成30年度精華町まち・ひと・しごと創生有識者会議を開会いたします。

私、本日の司会進行を務めさせていただきます、事務局の総務部企画調整課長の大原と申します。どうぞよろしくお願いします。

それでは、早速ではございますが、開会に当たりまして木村町長よりご挨拶を申し上げます。

木村町長、よろしくお願いします。

○木村町長

今日は、精華町まち・ひと・しごと創生有識者会議ということで、それぞれ委員の皆様方には、極めてご多用の中、また猛暑の中、こうしてご出席をいただき、誠にありがとうございます。

今年度の有識者会議は、昨年までと趣を変えまして、けいはんなオープンイノベーションセンター、これはＫＩＣＫと言ってるわけでありますけれども、ここにお運びをいただきまして、今年の４月に開所しましたこの「SEIKAクリエイターズインキュベーションセンター」を、有識者の皆様へのご紹介を兼ねまして会場とさせていただいたところでございます。施設の詳細につきましては、後ほどまた担当より説明をさせていただくと思いますが、国の地方創生関係の交付金を活用して整備したこの施設を、本町の科学のまちの子どもたちプロジェクトや創作活動支援の拠点として活用し

てまいりたいと考えております。

さて、政府においては、来るべき全国規模での人口減少と、それに伴います消費や経済力の低下に対応し、次の世代へ活力ある日本社会を継承することを目的として、まち・ひと・しごと創生法に基づく東京一極集中からの脱却と、地方の活性化を目指す取り組みが進められております。

そこで、精華町では、豊かな自然と歴史に恵まれ、また、けいはんな学研都市の中心に位置するという他の団体にはない地域資源を活用し、まちの魅力を内外に発信するシティプロモーションを精華町地域創生戦略の政策の柱として、さまざまな施策を進めているところでございます。平成２９年度におきましては、株式会社京都銀行様と地方創生に関する包括的な連携を目的に、精華町の魅力発信パートナーシップ協定を締結させていただき、これを記念した地域創生イベントを開催しましたほか、産学官によります連携のプラットフォームの構築やお茶の京都との連携、広報キャラクターを活用した首都圏でのＰＲ活動などに取り組んでまいりました。今年度に入りまして、去る４月１４日には、このＳＥＩＫＡクリエイターズインキュベーションセンターの開所式と記念シンポジウムを開催したほか、先日の７月２９日の日曜日には、京都精華大学様と連携し、セイカ子ども大学の第１回の講座「タワーをつくろう」を開催いたしました。台風の影響も心配されましたが、当日は精華大学の建築学の先生のご指導のもと、多くの子供たちが熱心に創作活動に取り組んでおりました。本町としましては、今後もこのセンターを拠点として、大学機関や企業との連携によります各種施策を展開してまいりたいと考えているところでございます。

本日の会議では、本町の地域創生戦略における政策の柱として掲げておりますシティプロモーションのより効果的な推進に向けまして、地域創生戦略に掲げる業績評価指標、いわゆるＫＰＩの検証などを通じまして、今後の取り組みに対するご示唆をいただければと考えております。

終わりになりましたが、委員の皆様方におかれましては、ぜひ自由な発想でご意見

を賜り、有意義な場となりますことを期待申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

○大原企画調整課長

ありがとうございました。

木村町長は、この後ほかの公務がございまして、これにて退席をさせていただきます。何とぞご了承ください。

○木村町長

どうぞよろしくお願いします。

○大原企画調整課長

それでは、まず、お配りをしております資料の確認をさせていただきます。誠に恐れ入りますが、以降の進行につきましては座って進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、まず、本日の会議次第、Ａ４の１枚物の資料でございます。次に、有識者会議の構成ということで委員名簿、これもＡ４の１枚物の資料でございます。続きまして、資料の①精華町地域創生戦略の基本的な考え方ということで、こちらは左肩にホチキスどめをしておりますカラー版の資料でございます。次に、資料の②ということで地方創生関係交付金の採択状況、こちらのオレンジの資料でございます。次に、資料の③－１ということで、左肩に「今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業」と記載をしておりますホチキスどめの資料でございます。次に、資料の④業績評価指標、ＫＰＩ年次経過報告ということで、こちらには、委員の皆様には事前にお送りをしておりましたが、本日、修正版をお配りさせていただいておりますので、よろしくお願いを申し上げます。次に、精華町地域創生戦略の冊子でございます。続きまして、精華町人口ビジョンの冊子でございます。以上が事前にお送りをさせていただいている資料等でございます。

続きまして、参考資料としてお配りをさせていただいております冊子類でございま

す。まず、京町セイカの公式ガイドブックということで、こちらは首都圏などで開催されます大規模なイベントなどで活用しているＰＲ冊子でございます。次に、けいはんな学研都市の中核的機構であります公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構さんが発行されております広報誌「けいはんなＶｉｅｗ」の６月号でございます。最後に、一般財団法人全国地方銀行協会さんが発行されてる機関誌ということで、こちらは京都銀行さんのほうからご提供いただいた資料でございます。

お配りしている資料は以上でございますが、不足しているものなどございませんでしょうか。

それでは、次第に戻っていただきまして、次第の２の出席者紹介に移りたいと思います。お配りをしております委員名簿、こちらは五十音順になっておりますけれども、この名簿に基づきまして、順にこちらのほうからご紹介をさせていただきたいと思います。

まず、京都銀行精華町支店、支店長の鹿谷昌史様でございます。

○鹿谷委員

鹿谷でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○大原企画調整課長

続きまして、この会議の座長をお願いをしております福知山公立大学地域経営学部准教授の杉岡秀紀様でございます。

○杉岡座長

杉岡でございます。よろしくお願いします。

○大原企画調整課長

続きまして、今回からご参加をいただきます経済産業省近畿経済産業局地域経済部地域経済課地域開発室室長で地方創生コンシェルジュの田口一江様でございます。

○田口委員

田口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○大原企画調整課長

続きまして、精華町商工会会長で、同じく今回からご参加をいただきます田尻儀久様でございます。

○田尻委員

田尻でございます。どうぞよろしくお願いします。

○大原企画調整課長

続きまして、公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構コーディネーターで元時事通信社京都総局長の常山広様でございます。

○常山委員

常山です。どうぞよろしくお願いします。

○大原企画調整課長

続きまして、この会議の副座長をお願いしております同志社大学グローバルコミュニケーション学部准教授の中村艶子様でございます。

○中村副座長

中村でございます。よろしくお願いいたします。

○大原企画調整課長

続きまして、特定非営利活動法人精華町ふるさと案内人の会理事長の古瀬治男様でございます。

○古瀬委員

古瀬です。どうぞよろしくお願いします。

○大原企画調整課長

続きまして、特定非営利活動法人みんなの元気塾代表の森田起一様でございます。

○森田委員

森田です。よろしくお願いします。

○大原企画調整課長

有識者会議の委員の皆様は以上でございます。

続きまして、本町の出席者をご紹介させていただきます。本日の有識者会議には、部長級の職員も出席をさせていただいております。名簿はお配りをしておりませんが、順にご紹介させていただきたいと思います。

まず、総務部長の岩橋でございます。

○岩橋総務部長

岩橋でございます。よろしくお願いします。

○大原企画調整課長

続きまして、住民部長の田中でございます。

○田中住民部長

田中でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○大原企画調整課長

続きまして、健康福祉環境部長の岩前でございます。

○岩前健康福祉環境部長

岩前でございます。よろしくお願いします。

○大原企画調整課長

続きまして、事業部長の宮本でございます。

○宮本事業部長

宮本です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○大原企画調整課長

続きまして、教育委員会教育部長の岩崎でございます。

○岩崎教育部長

岩崎でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○大原企画調整課長

続きまして、上下水道部長の浦西でございます。

○浦西上下水道部長

浦西でございます。よろしくお願いします。

○大原企画調整課長

続きまして、消防本部消防長の坂野でございます。

○坂野消防長

よろしくお願いします。

○大原企画調整課長

部長級の職員は以上でございます。

続きまして、事務局のメンバーをご紹介させていただきます。

まず、健康福祉環境部福祉課長の岩井でございます。

○岩井福祉課長

岩井です。よろしくお願いします。

○大原企画調整課長

同じく福祉課障害福祉係担当係長の中川でございます。

○中川福祉課障害福祉係担当係長

中川です。よろしくお願いいたします。

○大原企画調整課長

次に、事業部産業振興課長の山口でございます。

○山口産業振興課長

山口です。よろしくお願いします。

○大原企画調整課長

同じく課長補佐の吉岡でございます。

○吉岡産業振興課課長補佐

吉岡です。よろしくお願いします。

○大原企画調整課長

次に、総務部企画調整課課長補佐の西川でございます。

○西川企画調整課課長補佐

西川でございます。よろしくお願いいたします。

○大原企画調整課長

同じく主査の森島でございます。

○森島企画調整課主査

森島です。よろしくお願いいたします。

○大原企画調整課長

事務局のメンバーは以上でございます。どうぞよろしくお願いします。

それでは、お手元の次第に戻っていただきまして、次第の３の資料説明に移ってまいりたいと思います。

まず、①精華町地域創生戦略の概要でございます。これにつきましては、繰り返しの説明となりまして誠に恐縮でございますが、今回から新たにご参加をいただきました委員の方もおいでになりますので、改めて戦略の概要についてご説明をさせていただきたいと存じます。恐れ入りますが、資料の①をご覧ください。

平成２７年の１０月に策定をいたしました精華町地域創生戦略の基本的な考え方でございます。資料の左上でございます。第５次総合計画との関係でございますが、本格的な人口減少時代への対応と同時に、第５次総合計画に掲げております施策のうち、地域創生に資すると考えられる重点施策などを積極的に推進するためのアクションプランとして位置づけをしております。

次に、総合戦略策定に当たっての基本的な視点でございます。まず①として、豊かな自然や歴史に恵まれ、かつ学研都市の中心に位置する精華町のさまざまな地域資源を活用し、まちの魅力を高めることで新たなまちの価値を創造するということ、また、②といたしまして、住んでみたい、住んで良かったまち、あるいは訪れたい、訪れて良かったまちだと愛着と誇りを感じられる学研都市精華町の都市ブランドの確立によ

る地域創生の取り組みを進めるということでございます。

これらの基本的な視点、いわば精華町の基本理念に基づきまして、資料の右上になりますが、精華町の魅力発信、シティプロモーションを精華町の地域創生戦略における政策の柱といたしまして、①から⑤までの５つの基本目標を掲げまして、町内、町外に向けた戦略的な魅力発信を行うことを柱といたしております。

恐れ入りますが、資料を１枚おめくりをいただきまして、次のページには、地域創生戦略の策定の経過を時系列でまとめております。また、その次のページには、①の誘客拡大に向けた情報発信の強化から⑤健康・スポーツによる地域活性化まで、５つの基本目標を記載をさせていただいております。

精華町地域創生戦略の概要につきましては以上でございます。

続きまして、②地方創生関係交付金の状況及び③地域創生戦略関係事業の実施状況につきまして、事務局の西川よりご説明をさせていただきます。

○西川企画調整課課長補佐

続きまして、資料の②地方創生関係交付金の状況及び③の地域創生戦略関係事業の実施状況につきまして、ご説明をさせていただきます。

まず、地方創生関係交付金の状況につきましてご説明を申し上げます。こちら、資料②につきましては、地方創生関連での初めての交付金となりました平成２６年度の国の補正予算に伴います地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金から、今年度当初に計上いたしました地方創生推進交付金の継続分までの地方創生関係交付金に係る採択状況を示したものでございます。

ご覧のとおり、本町におきましては、現状においてできる限り効果的な事業構築を図りまして、内閣府や京都府とも協議を重ねる中で、昨年度はハード事業対象の交付金として地方創生拠点整備交付金を活用するなど、積極的に交付金獲得に挑んできたところでございます。

平成２８年度につきましては、補助率が１００％となります地方創生加速化交付金

を中心とした事業展開となりましたが、２８年度後半になりますと、新たに補助率２分の１の地方創生推進交付金の採択に伴う事業が開始されております。それまで交付金は原則として単年度での事業執行であったものと異なりまして、地方創生推進交付金につきましては、地域再生計画を策定しました上で３年ないし５年におけます複数年度の事業実施計画を策定することで、継続的な取り組みが行えるものでございます。

本町におきましては、平成２９年度より広域連携の枠組みにおけます３つの事業を計画しておりまして、一つは、京都府と京田辺市との連携によります「京都アカデミック産業創造事業」、２つ目には、京都府や宇治市、福知山市を初め府内の２０市町村が連携します「今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業」、最後に、京都府や舞鶴市、向日市などが連携し、平成２９年度から本町も新たに参画をいたしました「インクルーシブソサエティ推進事業」の３事業につきまして、いずれも平成３２年度までの事業実施計画を策定しておりまして、地方創生推進交付金の継続申請を中心とした交付金活用を図っているところでございます。地方創生関係交付金の採択状況についてのご説明は以上でございます。

続きまして、地域創生戦略関係事業の実施状況についてでございます。平成２９年度におきましては、先ほど交付金の状況でもご説明いたしましたとおり、地方創生推進交付金を活用いたしまして３つの事業に取り組んでまいりました。

まず、資料番号③－１番「今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業」でございます。本事業は、京都府と府内市町村、合計２０団体によります広域連携事業となってございます。本事業は、地元産品、観光のブランド力強化に向けまして、お茶の京都との連携を図り、川西観光苺園の閉園後におけます観光農業の再生を目指しまして、本町の特産品のイチゴを活用した体験型観光農園の継続支援や、特産化を目指した各種の取り組みを進めています。また、洛いもの商品化の支援など、観光農業の推進を目的に引き続き実施をいたしました。

事業結果の具体的な内容といたしましては、地域ブランド力強化を図るため、イチ

ゴを活用した体験型観光農業商品開発や、洛いもを活用した特産加工品開発に伴います事業に必要な経費を助成いたしましたほか、詳細につきましては、次の京都アカデミック産業創造事業においてご説明をいたしますが、精華町の経済と産業の現状分析、また産業振興、観光振興に向けました提案や、農業や地域産品を生かした産業、観光振興の提案に至るまでの調査、分析を行う今後の観光農業の推進のための基礎調査を行いました。また、７月１日から２日にかけて、このけいはんなオープンイノベーションセンター、ＫＩＣＫを会場として開催されました日本遺産サミットなど、各種イベントが年度内を通じて行われた「お茶の京都博」への参画や、お茶の京都ＤＭＯとの連携による取り組みを行ったところでございます。

事業成果といたしましては、イチゴを活用した体験型観光農園及び洛いも生産団体の活動支援を行うことによる観光、地元産品のブランド力強化、精華町の経済と産業の現状分析についての基礎的データを得ることができたと考えております。また、お茶の京都博において、京都府と連携し、日本遺産サミットなどに参画することで全国から２万２，０００人を集客したほか、お茶の京都ＤＭＯにおきまして広域観光プランの事業化などを行えたことが上げられるものでございます。

事業決算額と主な経費の内訳については記載のとおりでございます。

今後の課題といたしましては、観光農業を軸とした誘客の拡大を図るための継続的な支援に向けまして、今回の基礎調査結果をベースといたしまして、次の施策を戦略的に展開するための検討が必要になること。また、地域資源を生かした観光農業を推進するための地元産品の販売力向上と販路拡大を図る必要があること。そして、地域ブランドの強化に向けまして、引き続き支援を行うことが必要であるということでございます。

次に、資料番号③－２、「京都アカデミック産業創造事業」についてでございます。先ほど申し上げましたが、本事業は、京都府と本町、京田辺市によります３団体での広域連携事業ということでございます。本事業は、文化庁の京都への移転決定を契機

といたしまして、京都府による映画や漫画などによる文化産業の形成に向けた海外、国内への魅力発信、観光産業の振興の取り組みと広域的に連携し、学研都市における新たな文化創造に向けたサブカルチャー振興の事業などを展開することを目的として実施をしました。

事業結果の主な内容といたしましては、科学のまちの子どもたちプロジェクトの推進やサブカルチャーに関するクリエーター支援などを目指しまして、京都精華大学さんなどをはじめとする大学機関や企業との連携のプラットフォームといたしまして、コンソーシアム、「ＳＥＩＫＡクリエイターズインキュベーション推進拠点」を結成し、運営いたしましたほか、活動環境を整えるためのＩＣＴ機器などの整備や、学生や社会人によるワークショップやハッカソンを開催しましたほか、町の広報キャラクター、京町セイカを活用し、東京ビッグサイトで昨年８月に開催されましたコミックマーケットなどをはじめとする、サブカルチャー関係イベントにおいて、「学研都市精華町」のＰＲ活動、また、科学体験フェスティバルなどの「科学のまちの子どもたちプロジェクト」を通じた本町の魅力発信を行いました。

資料としてお手元にお配りをいたしております京町セイカ公式ガイドブックでございますけれども、こちらのほうは、一般の京町セイカのファンの方々で自主的に企画、編集をされたものを町として印刷させていただいたものでございまして、先ほど申し上げましたコミックマーケットを初めとして、主に公式のＳＮＳをフォローしていただいた方などに配布をさせていただいているものでございます。

また、一緒にお配りをいたしておりますお手元のうちわにつきましては、町内在住のクリエーターの方にデザインをしていただきまして、こちら平成３０年度版ということで、来週８月１０日から３日間開催されますコミックマーケット９４において、町のブースのＰＲ用に配布予定のものでございます。

また、インバウンド関係といたしまして、台湾人のブロガーやコスプレイヤーを招致いたしまして、実際に精華町に訪れていただきまして、見たことや感じたことをブ

ログやＳＮＳなどを通じて情報発信などをしていただいた取り組みや、けいはんな学研都市活性化促進協議会での取り組みを通じまして、文化、学術両面での学研都市の交流活性化の促進を行ったところでございます。

さらに、株式会社京都銀行様と昨年６月に包括的な連携協定を締結したことを契機といたしまして、本町の地域経済についての豊富な知見を持つ地元金融機関の特性を生かしつつ、国のＲＥＳＡＳや各種統計情報も交えまして、精華町の人、物、金の動きをつかむための調査、分析に係る業務委託を行ったところでございます。

調査結果といたしましては、非常に膨大な量の報告書でもございますので、調査結果の詳細につきましては割愛させていただきますが、調査結果に基づき分析された本町の強みと弱み、また機会と脅威について一部ご紹介をさせていただきますと、まず、本町の強みにつきましては、生産年齢の住民が多いということで、域外からの雇用者所得の流入が多く、年金などへの依存度が低いこと、また、教育関係の事業が充実しており、学研都市の特性として学術研究や開発機関が集積していること、住民の所得水準や学歴水準が高く、域内に質の高い個人市場があることなどが上げられております。

一方、弱みといたしましては、高齢化によります人口構成の逆ピラミッド化が進んでいること、学術研究や開発機関の集積によりまして広く域外にサービスを提供していることから、公共サービスに対する輸出入の収支は黒字であるものの、域内の産業への波及効果はそれほど高くないということ。そして、小売業や対個人サービスに勤務する従事者のウェイトは高いものの、住民に対する比率としては決して高くなく、地域住民の家計消費が域外に流出していることなどが上げられております。

次に、本町に影響を与えると考えられる外部環境としての機会と脅威につきまして、まず機会といたしましては、ＩＣＴ化による産業構造の変化や、産業の知識集約化によります消費者ニーズの高度化と多様化、小売業や対個人サービスの業態変化などが上げられております。逆に脅威といたしましては、人口の東京圏一極集中が続く中、

大阪圏、京都府などの流出が超過しておりまして、このまま人口の都心回帰が継続すること、また、インターネット通販の伸びによります地域の個人消費の流出などが上げられております。

なお、今回の調査、分析結果につきましては、今後、京都銀行様から担当者を招きまして職員研修での情報共有を予定しておりますほか、住民の皆様向けのセミナーなども開催する予定をしております。また、こちらの報告書につきましても、町のホームページに掲載しオープン化をするべく、現在準備を進めているところでございます。

事業決算額と主な経費内訳については記載のとおりでございます。

今後の課題でございますが、けいはんなオープンイノベーションセンター内に整備いたしましたこの「ＳＥＩＫＡクリエイターズインキュベーションセンター」を拠点とした施策展開を進めていく必要性があること、また、そのための各種団体との連携、協働を通じたけいはんなプラザのほうの知名度向上や、学研都市の活性化もあわせて促進する必要があるということが挙げられております。

次に、資料番号の③－３、「インクルーシブソサエティ推進事業」についてでございます。こちらにつきましては、京都府と府内町村、合計８団体によります広域連携事業となっておりまして、精華町は２９年度から参画をしているものでございます。本事業は、精華町地域創生戦略におけます基本目標、健康・スポーツによる地域活性化の一環といたしまして、京都府などとの連携のもと、共生社会の実現に向けた環境整備のための取り組みを進めることを目的として実施をいたしました。

事業結果の具体的な内容といたしましては、従来から、障害のある人と関係機関などがスポーツやレクリエーションを通じて互いに交流と理解を深めるために実施をしております「障害児者ふれあいのつどい」を活動の場といたしまして、現在活躍中のパラアスリートとの交流を行うことで競技そのものの楽しさや魅力を感じること、また、パラスポーツの普及啓発を含めた障害のある人の社会参加に向けたスポーツ振興のため、車椅子ラグビーの実演を行ったところでございます。

事業成果といたしましては、障害のある人もない人も、パラスポーツを通じまして相互理解を深めるとともに、パラスポーツの楽しさや魅力を発信するきっかけづくりができたものと考えております。

事業決算額と主な経費内訳については記載のとおりでございます。

今後の課題といたしましては、一過性のイベントとならないよう、今後、パラスポーツを通じて、継続して普及啓発のできる環境づくりの必要性が上げられております。

最後に、地方創生拠点整備交付金を活用したハード事業といたしまして、資料番号③－４、サブカルチャーを軸にした創作活動支援研究拠点整備事業でございます。こちらは本町単独での事業となってございます。本事業は、以前、旧私のしごと館としてつくられまして、閉館後、京都府が無償譲渡を受けて、けいはんなオープンイノベーションセンター、ＫＩＣＫとして再生をいたしましたこの施設の中におきまして、大学機関等との連携によるアニメ、漫画、ＣＧ、ゲーム等のいわゆるサブカルチャーと呼ばれる分野を中心に、創作活動を行う若手クリエイターやアマチュア創作者が自由に作業、研究、展示などができる機能を持ったサテライトオフィス的な空間を整備することを目的として実施をいたしました。

事業結果の具体的な内容といたしましては、ＫＩＣＫ内におきまして、現在こちらの空間を京都府から借り受け、科学のまちの子どもたちプロジェクトの推進とサブカルチャーなどの創作活動の支援のための機能をあわせ持つ拠点として、「ＳＥＩＫＡクリエイターズインキュベーションセンター」を整備したものでございます。施設面積としましては、１階部分が４４８．４７平方メートル、２階部分が１８２．５３平方メートルの合計６３１平方メートルとなりまして、既存の設備を生かした上で、全館空調に頼らず、できる限り単独で活動ができる空間として運営ができるよう、空調機器や無線インターネット接続などの環境整備をしたものでございます。

事業成果といたしましては、これまで特定の活動場所を持たなかった科学のまちの子どもたちプロジェクトの安定した展開と、京都精華大学などとの連携によります創

作活動支援の取り組みの拠点として活用が見込まれるものでございます。

事業決算額と主な経費内訳については記載のとおりでございます。

今後の課題といたしましては、年間を通じての施設の有効活用に向けまして、拠点施設整備とあわせて構築をいたしましたコンソーシアム、「ＳＥＩＫＡクリエイターズインキュベーション推進拠点」を中心といたしまして、拠点運営を効果的に推進することが必要であると考えております。

なお、お手元にお配りをしております資料「けいはんなＶｉｅｗ」の１６ページに、こちらのセンターで４月に行われました開所式についての記事が掲載されています。

地域創生戦略関係事業の実施状況についてのご説明は以上でございます。

○大原企画調整課長

それでは、続きまして、④業績評価指標、ＫＰＩ年次経過報告につきまして、説明をさせていただきますので、恐れ入りますが、資料番号の④をご覧いただきたいと思います。

精華町地域創生戦略では、５つの基本目標を達成するための具体的な施策と、それを評価するための指標でありますＫＰＩ、すなわち数値目標を設定しておりまして、毎年度、この有識者会議におきまして進捗状況を検証していただくこととなっております。こちらの資料は、若干見にくくて恐縮ですが、それぞれのＫＰＩの進捗状況が経年比較できるように整理をさせていただいたものでございます。

まず、左から２番目の列、基本目標１で掲げましたＫＰＩの進捗状況でございます。一番左側の列、通し番号１の広報誌配布世帯率や、番号の５、学研都市イベント参加者数及びその下、番号６のサブカルチャー関連イベント実施・参加件数並びに、少し飛びまして番号の９、ホームページ年間アクセス数につきましては、既に目標値を達成しております。また、戻っていただきまして番号の２、ソーシャルネットワーキングサービス、ＳＮＳにおける総フォロワー数につきましては順調な伸びを示しておりますものの、番号の４、滞在人口率、これはすなわち地域に２時間以上滞在した人の

数ということで、その数を国勢調査の夜間人口で除した割合ということでございまして、これは昨年の４月から８月までの平均値でございますが、０．８４倍ということで、微増にとどまっているという状況でございます。

続きまして、中ほどになりますが、基本目標２で掲げましたＫＰＩの進捗状況でございます。まず、番号１０、学研立地企業等出前授業件数や、その下、１１番、審議会等の女性の割合は増加をしておりますものの、その下、１２番、公共的活動支援対象事業件数については減少となっております。

次に、下から３つ目ですが、基本目標３で掲げましたＫＰＩの進捗状況でございますが、恐れ入ります、１枚おめくりをいただきまして、２ページをごらんいただきたいと存じます。通し番号、上から２つ目、１７番、研究開発型産業施設の立地数は順調な伸びを示しておりまして、その下、番号１８、研究開発型産業施設の地元雇用者数については既に目標値を達成している状況でございます。

続きまして、基本目標４で掲げたＫＰＩの進捗状況でございます。番号の２４、特産加工品の新規販売箇所数や、２６、新規特産加工品の開発及び２７のお茶の京都構想に基づく拠点の設置につきましては、既に目標値を達成をしている状況でございます。しかしながら、番号の２２番、農産物直売所年間販売数や、その下、番号２３の観光イチゴ園などの入園者数及び２５番の特産加工品売り上げ個数については、基準値を下回っているという状況でございます。

次に、基本目標５で掲げたＫＰＩの進捗状況でございます。通し番号の２９番、ツアー・オブ・ジャパン京都ステージ開催による誘客数や、１枚おめくりをいただきまして、３ページの上から３つ目、番号３３の町の健康に係るスマートフォンアプリのダウンロード数については、既に目標値を達成している状況でございます。しかしながら、番号３２、健康増進活動プロジェクト参加者数については基準値を下回っておりまして、伸び悩んでいる状況となっております。

なお、通し番号の３４から３７までのＫＰＩにつきましては、地域創生戦略には記

載をしてございませんが、交付金対象事業の重要業績評価指標として用いております項目につきまして、前回、昨年の会議におきましてご質問をいただきましたことから、資料に追加で記載をさせていただいております。

番号３４の観光入込客数につきましては増加傾向にはありますものの、番号３６の外国人宿泊客数については、中国からの大口団体客の動向に左右されたこともありまして大幅な減少となっております。また、番号３５、観光消費額についても減少傾向となっております。なお、一番下、番号３７の小売業における人口１人当たり商品販売額につきましては、統計調査の年次の関係から数値はなしということになっております。

以上が業績評価指標、ＫＰＩの年次経過報告でございます。

次第の３の資料説明につきましては以上でございます。

それでは、ここで一旦トイレ休憩をとらせていただきたいと存じます。今２時４３分ですので、２時５５分まで休憩をとらせていただきたいと思います。２時５５分から再開をさせていただきますので、よろしくお願いします。

〔休　　憩〕

○大原企画調整課長

それでは、再開をさせていただきます。

次第の４、説明内容へのコメント、意見交換に移ってまいりたいと思います。

以降の進行につきましては、座長の杉岡先生にお願いをしたいと思います。

なお、意見交換におきますご発言の内容につきましては、後日、委員の皆様にご確認をいただきました上で議事録をホームページなどで公開をしてまいりたいと考えておりますので、その点よろしくお願いを申し上げます。

それでは、杉岡先生、以降の進行をよろしくお願いします。

○杉岡座長

ありがとうございました。

ご説明どうもありがとうございました。今日初めてご参加される委員の方もいらっしゃいますので、たっぷりとお時間とれたらなと思っておりますが、まず、全体議論を始める前の共有事項として、座長として一言申し上げたいと思います。

一つは、私が今住んでおりますのは京都府北部でございます。北部から南部、色々なまちの地方創生にかかわっておりますが、結構、精華町さんはかなり希有なというか、特異なやり方といいますか、事業展開になっておられまして、それは、一つは人口問題だと思うんです。というのは、特に北部の方になってきますと、もう毎年１，０００人単位で消えるようなまちもある中で、精華町については、今日も朝、庁舎を確認しましたら、先月よりもプラス３１人も増えたというふうな掲示も出ておりました。そういった中で申し上げれば、非常にまだ恵まれた環境にある中で、人口をただちに増やすためのというよりは、むしろ潜在的な魅力を高めていくというようなところに軸足を置いた事業のご紹介が多かったのではないかと思います。

そういった中で、予防的な対応も含めて未来投資的な対応というふうな事業が多いという特徴がまずあるのかなと確認したいと思います、しからば、その人口問題の中で注目すべき人口とは何かということでございますが、人の口と書く「人口」ではなくて、人が交わると書く「人交」、つまり、いわゆる交流人口とか定住人口、あるいは、最近では関係人口という言葉もありますが、そのような町内外の人たちが多様に交流し合える環境、関係、そういったものをつくるような事業展開されているのが精華町の地方創生なのかなということを、まず印象として持ちました。それはもちろん貴重でございますので尊重したいと思いますし、磨きをかければいいと思いますが、その中で抜けている点とかがあるかもしれません。そういった部分を、ぜひとも委員の皆さんから補足なりご提案をいただきたいなということがまず第１点目になります。

第２点は、評価の視点ですね。私もさまざまな自治体の評価、いわゆる行政評価、政策評価にかかわっておりますけども、よく使われますのは３つの視点です。１つは必要性、そもそもこれは必要なのかということですね。２つは有効性、目的に対する

手段としてそれが本当に有効的に機能しているのかということですね。そして効率性が３つ目でございまして、例えば、費用対効果、お金のかけ方ですね、そういった部分も含めて、本当に効果が出ているのかといった部分を検証していくというのが従来型の検証の仕方でありますけども、地方創生の場合はここが難しくて、地方創生関係の事業が行政の中だけで完結しないものがたくさんあります。そういった視点も一つ横目に見ながら、むしろ私としては、このＫＰＩを１個１個潰していくというよりは、どういった視点が今、行政内部の議論の中で足りてない視点なのかと、こういうやり方をもっとしたらどうかという提案型の、創造的なむしろ意見交換をしたほうが有効的だろうと思います。すなわち従来型の評価の視点も横目に見ながら、むしろ質的な議論を委員の皆さんにお願いしたいなというのが２つ目の見解です。

最後に、少しこれはまとめのところでもお話しするかもしれませんが、若干私が気になってる点を申し上げるならば、これは去年も発言申し上げたと思うんですが、市民、町民の視点というのが、やや弱い、少ないなという感じがいたしまして、行政が仕掛ける側、あるいは町民が仕掛けられる側という固定化されたことになってしまいますと、これは非常にもったいないなという気がいたします。町民の皆さんがこのさまざまな事業にどういった目線で参加してるのかなといった点は、ぜひとも共通の見解として聞いてみたいなと思います。加えて経済の視点ですよね。先ほど最後のほうで経済効果の部分もありましたけども、最終的には、まさに稼ぐまちと僕は思ってますけども、こういった税金を使うことによって、まちの中にしっかりとお金が回っていく、こういった仕組みにつながっていくような事業であるのかどうか。イチゴの話もございました。ぜひそういった視点を含めて検証をしていきたいと思っております。

それでは進め方なんですが、大きく２つのご説明がありましたので、一つは、４つの事業、特に去年度までにご説明なかったものもご説明いただきました。ここから自由に皆さんから、これ聞いてみたいということでご質問いただいても結構です。また、冒頭でございました平成２６年から始まっておりますこの通年のＫＰＩ、これは今日

説明されなかった部分ですけども、継続的に取り組まれてる事業のＫＰＩも一緒になってございますので、こちらの資料からご質問いただいても結構かなと思います。それを含めて、委員の皆様の活発な議論をお願いしたいなと。順番、１、２、３、４、５といくのもありかなと思ったのですが、多分もういろんなとこからミックスして多分出てくると思いますので、どこから聞いていただいてもいいのかなと思います。とにかくご発言をお願いしたいと思います。

どなたからでも結構でございますから、では、森田さんからお願いします。

○森田委員

人口の関係なんですけど、人口が減っていくというのはもう間違いない。少子化ありきのことで、例えば、私の東畑もそうなんですけど、西のほうですけども、約２０年前と比較して２００人減ってる。２００人と言えば、交流人口という話がありましたけれども、そこへ行くまで以前の問題として、自治会の運営、区の運営が、担い手がいなくて交流どころじゃないわけです。そこへお寺や神社の伝統文化を継承していく、区の運営を担う担い手がなくなり、そういう伝統文化を継承する担い手がいなくなる。このまま置いておくと、もう縮小して、いずれは、日本創成会議が、半分の時代になる、自治体がなくなる、そういう問題提起がありましたけども、それと同じように、地域そのものが縮小し、なくなっていくと、消滅してしまうと、そういう心配をしているんです。そういうことを行政としてどこまで把握されてるのか。

恐らく、東畑は旧村ですけれども、旧村の地域はほとんど同じような状況だと。確かに学研都市の人口が、維持か少し増加をしているんだと。しばらくその状況は続くかもわかりませんけども、４地域はもう減ってくるというふうに思います。そこへ若い２０から３０代ぐらいの人口が、人口ビジョンでも出てますけれども、一番これから支えてくれる、そういう役割の人、女性もいなくなる。その辺をどこまで行政が把握し、危機感を持ってもらっているのか。そういう状況を行政側としてどういう方法で支えていこうという、そういう考えを持ってもらっているのか。その辺を、交流人

口へ行くまでにちょっと聞かせてほしいなと思う。私は、たまたま今、東畑の自治会の会長、区長をさせてもらっているんですけれども、最近そういうことを特に心配しているわけです。これは日本全国、地方、同じような状況だと思うんですけれども、このまま地域に任せていたら、もうそうなっていくのは間違いない。縮小し、消滅していく。どういう応援を行政側として考えてもらってるのか、いつも心配してますので、地域に帰って、役場としても考えてくれているということも含めて聞かせてほしいなと思いますけれども。交流人口とはちょっと離れますけども、それ以前のこととして。

○杉岡座長

恐らく、資料としては３年前につくられた人口減少の資料がありますし、ＲＥＳＡＳとかも使いながら、大きな人口につきましてはこちらのほうで確認はできると思うんですね。平成３７年までは増えるけれども、それから減っていくというのは精華町の一応見込みになっております。この推計自身はそうだろうと思いますね。ただ、今、森田委員からご質問があったのは、精華町の中で一つ一つの小学校区なり自治会単位でどういった人口増減になっているのかというのは、実はこの資料からはわからないということですよね。なので、実は全体としては確かにちょっと増えているかもしれませんけども、ガクンと減ってる地域もあるだろうということに対する共有ということでよろしいでしょうか。

○森田委員

だろうではなく、旧村の４地域は先ほど言った、どこでもこういう傾向があると思います。

○杉岡座長

その多分、数値化みたいな見える化という部分が、多分この資料だけではうかがえないので、このあたりについては、まず現状どうなっているのですかということですね。

事務局いかがでしょうか。

○大原企画調整課長

ただいま森田委員のほうから、特に東畑地域を例示をしていただきながら、精華町でも既存地域の部分で、やはりそういった人口の減少が既にそういう局面に入っているというようなお話をいただきましたが、これ、やはり私ども行政といたしましても、精華町全体としては何とか今、人口が微増してる部分もありつつ、ほぼ横ばいの状態になっておりますけれども、やはりそういった地域間でのそういう状況の違いというのはあるという認識はさせていただいております。

今おっしゃっていただきましたように、やはり自治会の運営であったり、あるいはいろんな伝統文化を継承していく上でのそういう人材の不足という部分を、東畑地区だけではなくて、やはり町全体での課題であるということが、そういう課題認識は持たせていただいております。

精華町での取り組みということで申し上げますと、なかなか手が届いていない部分があるのですが、例えば一つの例といたしまして、精華町では、地域のまちづくりを担っていただけるような人材をいかに育成をして確保していくかという視点の中で、その地域公共人材の育成を目的とした、「せいかまちづくり塾」という塾を、既にちょっと４年目に入ってるんですけれども、立ち上げをいたしまして、特に、今までお勤めをされてた方が定年退職をされたことを機に地域のことに目を向けていただいて、今までの自分のいろんな培ってこられた部分を生かして地域のために役立つようなことにつなげていただくという、いわゆる地域デビューをしていただく一つのきっかけづくりということで、せいかまちづくり塾を運営をさせていただいて、いろんな地域のことを担っていただけるような人材育成に取り組みつつあると。これもなかなかまだ緒についたばかりでありますので、すぐに人材の確保に至っているかという部分ではなかなか難しい部分であるんですが、ちょっとそういった取り組みも一方ではさせていただいてるということでございます。

あと一つは、今までもこの地域創生の関係の交付金を活用していろんなＰＲ活動等々をしてきてるんですけども、これは、一つには、当然町外の方々に学研都市精華町のことを知っていただいて、精華町ってこんないい町なんだなということに気づいていただいて、精華町のことに目を向けていただいて、当然、交流人口の拡大という部分もありますし、やはり一度住んでみたいなというふうに言っていただけるような、ひいては定住人口の増加にもつながればいいかなということもありますし、もう一つは、内向きのプロモーションということで、精華町民の方に、実際に精華町って実はこんないい町なんだなということに気づいていただいて、特に若い世代の方々を中心に、このまま精華町に住み続けたいなと言っていただけるようなことにつなげていきたい、少しでも人口の流出の抑制につながれば、あるいは一旦出たとしても、いずれはまた将来戻ってきていただくとかですね、そういったことにつながればいいかなということで、こういった国の交付金なども活用しながらさまざまな取り組みをしてるということでございます。

ただ、今おっしゃっていただいたような部分のすぐに解決につながるかという部分ではなかなか難しい部分があるかもしれませんが、できることを地道に取り組んでいくことが重要であるかなということで、こういった取り組みも並行してさせていただいてるというような状況でございます。

○杉岡座長

森田さん、いかがですか。

○森田委員

丁寧にどうも。いろいろ考えてくれてると思うんですけども、例えばね、これは国が制度化した地域創生の交付金事業ですね。これと同じような、町で各自治会向けというか、地域向けのこういう地域創生のそういう事業とかね、そういう制度とかを、地域がこういうことをしたいと、元気、活力を生み出すのにこういうことをしたいと、こういう伝統文化を継承したいと、そういう事業を提案してもらってね、町がそれを

審査して、人なり物なりお金なりを何とかする、それで応援する、そんな事業というか制度をぜひつくってほしいなというふうに思うんですけど、これは要望ということで回答は結構ですけども、お願いしたいなということでございます。

○杉岡座長

森田委員さんおっしゃるとおりだと思います。冒頭、私が発言した趣旨もそういったことでして、もちろん町のほうで防災を含めて予防的、自衛的にさまざまな総合的な観点から事業をされてますけども、一つ気になってるのは、住民の皆さんが、こういうニーズがあるんだとか、住民の皆さんがこういったことを地域のためにやりたいんだということの視点がやや弱いというところが現行の精華町の特徴だと思うんですよ。ですので、今、森田委員のお話も含めて数字を見ますと、最近の数字で東畑でいうと６５６人、２４６世帯ですね。一番多いところで光台が約８，０００人で３，０００世帯ありますので、ちょっと精華町の中でも非常に人口の多いとこ少ないとこが本当に激しい差があります。地区での特性も全然違いますので、そういった中で言いますと、今一番、北部も含め、全国的な動きとしては、小規模多機能自治という言葉が出てきてます。それは何かというと、一つずつの自治会だけでは、やっぱり自治会長さんの高齢化や担い手不足という話はどこも同じ悩み抱えてますので、小学校区単位ぐらいで自治会が２つ３つまとまって、ホールディングスといいますか、地域運営組織をつくってやっていこうというのが、今、一番最先端の動きです。この界隈でいいますと、兵庫県朝来市とか、島根県雲南市、あるいは三重県の伊賀市とか名張市、そういった地域が非常に先進的な動きをされてますので、そういった動きを精華町も調査研究をいただきながら、自治会長の皆さんの意見も聞きながら、これに対しての地域創生やりましょうという展開もぜひ検討いただければと思います。国のお金を使うとか別にして、一般財源としてやっていかければいけない事業だと思ってますので、人口が減っていくまでにしっかりと研究いただいて、地域の皆様、提案いただけるような、そういった地域創生事業も入れてほしいと、私も申し上げたいと思います。あ

りがとうございました。

このままで続けて結構ですし、ほかの事業でも結構でございます。

じゃ、田尻会長、お願いします。

○田尻委員

私は商工会の会長をやってますので、商工業を中心に、経済面ですね、いう形で質問させていただきたいと思うんですが、まず、この資料③－１のところですが、精華町のこの数十年間ずっとイチゴを中心としたブランド化をしてきて、事業展開をやってこられたんですが、ご存じのように、もう生産者が大変減りました。本当にイチゴのまちという形でブランド化していってまだ大丈夫なのか。実際に生産者が減っていって、例えば、今、イチゴをつくる、高齢化になられて生産ができない、なおかつもうちょっと楽なほう、はっきり言いますと万願寺から今度ケールという形で展開しているのにもかかわらず、まだここにイチゴにこだわる必要はあるのかというところもちょっと一つ聞きたいのですが。

○杉岡座長

先ほどいただいた資料でＫＰＩのほうで、５万名のイチゴ農園の入園者数が今年度になって、半分ぐらいになってしまって、何があったんだろうということですね。台風とかもありましたし、今、さっきおっしゃったようなことがあったのかも、ちょっとこのあたりの長期的な戦略といいますか、見込みといいますか、このあたりいかがでしょうね。

よろしくお願いします。

○吉岡産業振興課課長補佐

まず、すみません、２ついただいた中でＫＰＩの関係なんですけれども、実は、杉岡先生が言っていただいたとおり一つ理由がございまして、今まで２園ございましたイチゴ園が、１園閉園してしまうという事態となりました。それによって、一番大きなイチゴ園のほうがなくなってしまったという状況が一つ起こりました。ただし、ち

ょうどこの地方創生のお金を活用させていただきまして、すぐさま、我々としても３万人規模の誘客を誇っていたイチゴ園が１つなくなったことで非常に大きな観光資源としてダメージですので、それに対して即座に手を打ちまして、若手の、それまでそこのイチゴ園のほうで働かれておられました若手の農業者のほうを支援をいたしまして、すぐさま新しいイチゴ園を開設することができました。ただし、やはり規模的にはなかなか、従前のイチゴ園と同等の規模でいきなり再開することはできませんでしたので、そこに関しましては少し減にはなっておるんですけれども、丸々の減少にはならず、確かに減ってはおるんですけども少しでとどめたということが出てます。

今後、この新しいイチゴ園を十分に支援しながら広がっていくようにということで、この地方創生のお金も活用させていただきながら進めているというところでございます。ＫＰＩの指標はご指摘いただいたとおりの。

○杉岡座長

激減になってますね。

○吉岡産業振興課課長補佐

はい。もう１個、イチゴのほうですね、生産者が減っているというところで、ここにこだわっていく必要があるのかどうかというところなんですけれども、これは昨年度、京都銀行さんと包括連携協定の中で、本当に観光農業、観光として振興をこれまでしてきたけれども、改めて立ち返って調べていただいたという経過があります。その中で、やはり京都府内の中でもイチゴの生産、作付というのは、群を抜いて京都府内で高い。京都市の倍ぐらいはあるというようなレベルでございます。ただし、出荷ベースではございませんで、ほぼイチゴ狩りを中心としたところになってるというところでございます。

こういうような状況を見た中で、やはり多くのところから、これまでも３万人ベースでイチゴ園のほうに来ていただいてるという中では、これをしっかり推し進めていく必要があるだろうということと、２園ある中で１園は、若手農業者をしっかり支援

しながら新しく開園していただいた。もう１園につきましては、新たに現在２名の若手農業者が入っていただいて、今後の展開といいますか、これからイチゴ園を続けていくということをやっていただいておりますので、新たにイチゴ園つくろうということで広がりといいますか、イチゴ園の中に農業者のほうも増えてきてはおりますので、目に見えて一気にどっと広がっていくというところまではいっておりませんけれども、若手の中でも少しずつこれから増えていくというような部分では、可能性としてはございますので、我々といたしましても、やはりイチゴ狩りを楽しみに来ていただいて、精華町ということでもございますので、このまま伸ばしていきたいというふうに考えているところでございます。

○田尻委員

ありがとうございます。

私も精華町を説明するときに、もちろん府内もそうでございますし、府外、県外もそうなんですけれどもと、どういうまちなんですかという説明をするときに、まずは場所、どこにあるのかという説明をするんですよね。場所と、それともう一つ、精華町の特産品になるもの、例えばイチゴが有名なんですよ、で、イチゴでこうですかっていうことを言われる方が余りおいででない、知られてないというところもあります。

やはりそういう意味では、１次産業であれば農業ももちろんそうなんですけども、我々商工業にとっては加工、２次産業もしくは３次産業、こっちを重点に置かないといけないわけですから、加工をしてお土産を持って帰ってもらう。そのことによって経済効果がもっと増してくるわけですから、しっかりとそこのところも重点を置いていただいて、加工、それから販売までしっかり持っていただきたいなというふうに思っております。そうでないと、特産品がイチゴだけやったらイチゴ狩り来るだけなんですよね。３，０００円落としたら終わりじゃなしに、やはりそこに４，０００円、５，０００円。食べるもの、ああ、あそこの喫茶店にパフェがあるじゃないかと、あそこに行ったらクッキーが売れてるじゃないかと、そういうような仕組みづくりをし

っかりやっていかないと、ただイチゴだけ、今ブランド化されて観光イチゴだけでは、ちょっともうからないという部分が一つあります。

もうちょっと経済のこと言いますと、やはり特に新祝園駅前でございます。特に西側のほうは開発が進んでおりますけども、東側のほう、すごく昔は繁華街でございました。私は精華中学行っておりましたけども、あのころはひょうたんやの前は銀座通りかというぐらい、あそこしか買い物ができなかったような、そんな時代があったんですが、ご存じのように、ほとんど西側に大きなショッピングセンターができ、それから今、高齢化で商売ができなくてやめていかれる方が増えてきているという形になってきて、変な話ですけれども、急行がとまる駅、高の原、新祝園、京田辺、と見たときに、精華町でちょっと一杯でも飲んで帰ろうかというような雰囲気がまずありません。行くんだったら田辺へ行ったほうが、たくさんの店があって安く飲めるというのも事実でございまして、やっぱり駅前というのはすごい好立地だということですね。だから、それをいかにどういうふうに考えてこれから戦略組んでいただけるのかということを、まず聞いておきたいんですけれども。

○杉岡座長

いかがでしょうか。駅周辺のにぎわいづくりということを多分お尋ねだと思います。直接本日の地方創生事業のことではないですが、総合的には関わるお話かなと。駅の魅力とか駅ナカなどは魅力向上の先にあるものですね。

○田尻委員

町民視点からいいますとそうなります。

○杉岡座長

どうでしょうか。

○大原企画調整課長

まず前段のイチゴの生産だけでなくて、加工、販売、そういった実際に例えばお土産で持って帰っていただくという、お金を落としていただくという、そういう仕組み

づくりが大切というご意見でございます。それはもう私どもも非常に同じ思いでございまして、できるだけイチゴ狩りに来て、それで終わるのではなくて、実際にいろんなお土産を買って帰っていただく、あるいはいろんな飲食もひっくるめて町内でお金を落として帰っていただくということがやはり一番重要なことであるというふうに考えておりますので、そこについては、ちょっと具体的にどういうやり方がいいのかというのはまだこれからの内容になってくると思うんですが、例えば商工会さんもかかわっていただいてますが、イチゴフレーバーティーの製品化とか、実際に精華町でとれたイチゴをそういった製品にしていただいてお土産として買っていただくというような取り組みも、徐々に商工会さんのご尽力もあってできてきてる部分もありますので、そういった部分をもっと幅広く広げていくということが大切かなというふうに思っております。

もう１点、新祝園駅前の活性化の部分は、これにつきましても非常に重要なことであるというふうに考えておりまして、やはり学研の中核クラスター、精華・西木津地区は非常に企業さんの数も増えてきて、実際そこで働く方というのも右肩上がりに増えてきてるという状況があります。ただし、今おっしゃっていただきましたように、せっかく祝園までバスで帰ってきても、飲むところがなくて、実際、例えば新田辺へ行かれたり、奈良のほうへ行かれたりというような、そういう動き、動向があると思います。そういう部分でいきますと、できるだけやはり駅前をもっと活性化させて、そこで何かしら落としていただくような部分というのが必要かなという、そういう課題認識はあるんですけれども、いかんせん、やはり例えば駅の東側につきましては、もともとやはり昭和４０年代以降、住宅地として開発がされてきて、住宅が張りついてるというような状況もあったり、あるいは都市計画そのものがそういった状況になっている部分もあって、今すぐ何か商業に転換しようとしてもなかなか難しいという部分もあるかと思いますので、その辺については今後、中長期的に、やはりいろいろと全体的なまちづくりの中で検討をしていく課題であるという認識はしておりますの

で、その点ご理解をいただければなというふうに思います。以上です。

○杉岡座長

追加の問いなんですけど、一つは、ふるさと納税ですね、ちょっと調べたんですけど、「さとふる」でふるさと納税がひっかからなかったので、精華町さんのふるさと納税は、今、年間どれぐらい寄附金ございますか。概数でいいです。

○西川企画調整課課長補佐

数百万円台です。

○杉岡座長

数百万。

○西川企画調整課課長補佐

はい。

○杉岡座長

これに対する、町長も含めた思いというか戦略、財政政策ですね、これは特に、例えば「さとふる」に向けていこうとかという方向性とか、京町セイカちゃんにくっつけたりと。つまり、イチゴを出口にしたいとしても、フレーバーティーも買ってくださいだけでは誰も買ってくれませんので。私が今住んでる福知山市は、最初３，０００万か４，０００万ぐらいの納税額だったんですが、「さとふる」に載ってから１億円を超えました。福知山はスイーツのまち、肉のまちでもありますので、そういったものを前面におしだしました。これ賛否両論ありますが、もちろん３割未満にしてますけども、しっかりとそこでも勝負できるような返礼品もそろえながら、加えてその使途につきましても大学への支援金とかいう形での特色を出しながら、ふるさと納税を戦略的に活用しながら歳入確保とプロモーション、そして地元の経済を潤す戦略ですよね。このあたりは、多分どのまちも今仕掛けてる一つのあれでございますので、そこは最低限、使えるものは使ったらいいんじゃないかなと思います。今ふるさと納税に関する戦略というのはないのでしょうか。

○西川企画調整課課長補佐

ふるさと納税につきましては、もともとの精華町のスタンスといたしまして、返礼品につきましては懐疑的な立場をとっておりまして、積極的に取り組んでこなかったという事実はございます。しかしながら、所得税法の改正などもございまして、申告しなくてもワンストップで還付が受けられるなど、ふるさと納税が推進されるような施策が進められているという背景もございますので、この部分を一定、全国的な動きに精華町としても取り組んでいかなければならないというふうには考えております。

一つは、先ほど少し触れていただきましたけれども、クラウドファンディングという考え方で、精華町としてやりたいこと、こういったことのためにお金をいただきたいというような、単にお金をいただいて返礼品を渡すのではなくて、目的をお示しした上で支援をいただくというやり方が一つの考え方ではないかということで、試行的に以前、キャラクターの声をつくるという観点のもとで行い、それに対して、２００万円の目標額に対して倍以上の支援が集まったという実績がございます。これは一定効果があったものと考えておりまして、こういったものでありますとか、同じようなクラウドファンディングの方式のようなものでやるのか、通年的なものでやるのかという部分はございますけれども、こういうプロジェクト志向型のふるさと納税のやり方というものは一定考えられるであろうということで、今、財政当局とも調整をしながら進めつつあると、今現状としてはそういうことでございます。

○杉岡座長

あくまで自治体の判断ですよね。今、クラウドファンディングの資料を見ても、この中に一応、７万円以上寄附いただいた方に精華町の特産物、農産物を加工したジャムを云々と書いてますので、７万円出してくれる人がいるかわかりませんけども、そういった形の中に組み込むのもありと思っております。このあたりは正解はございませんので、ぜひとも地元経済につながっていくように継続的に検討いただければと思います。

○田尻委員

そうなんですよね。

○杉岡座長

そこを重視していただきたいと思います。

○田尻委員

これは、言いますと、やはり産業ができますので、産業ができますと過疎化地域の人を雇用していただく。雇用していただくと、やはり過疎化地域なんか本当に、非常にやっぱり農業中心の地域なんですよね。農作業するのに、やはり遠方、もしくは遠いとこに行ってると農業ができないというのが事実なんです。昔やったら、変な話ですけど、私の叔父も近鉄に行って、給料は安いけれども、地元の家で住みながら農業ができたという時代があったんですけども、これがなかなか今はできなくなってきてるのが事実なんです。であるならば、やはりここで就労ができる場所をつくっていく。そのことによって過疎化地域もそこに住みながら地域で地域貢献でき、農業もできるという、これが可能になってくると私は思ってますので、ただ農業だけじゃなしに、経済も一緒にこういうふうにつけていくことによって、就労、それからそこに住む、それからそこで経済活動ができるというような、やっぱりこれが一番魅力的なとこなので、しっかりその辺のところを総合的に見ていただきたいなというふうに思っております。

○杉岡座長

ありがとうございます。

あと、にぎわいの話で、これはコメントは本当に要らないんですけども、島根県の中山間地域研究センター元研究員の藤山浩さんがおっしゃったように、例えばチェーン店ってたくさんありますよね、特に精華町も精華大通り沿いにたくさんありますけども、チェーン店で例えばお酒を飲んだ場合と地元のお店で飲んだ場合と、全然地域に落ちるお金が違うんですよね。チェーン店で飲んでしまうと５％くらいしか地元に

落ちない。これはもう統計的にわかっていますので、やはり地元にお金を落とすためには、地元のお店をなるべく利用していただくという、そんな戦略も必要になってくると思います。最後に、都市計画の話がございました。例えば京都府内でいえば、綾部はもう都市計画を完全に見直して、市街化調整区域も含めて全部指定を外しました。そういった大胆な都市計画の見直しという事例も出てきますので、今までこうだったからこうはできないんだという発想ではなく、できるためにはどうすればいいのかを検討いただければと思います。精華町の近くでも、京田辺も東商店街につきましてはキララ商店街に変えて、ビジネス推進で何とか頑張っておられます。そういったやっぱり頑張る人を応援するような、そんな気風というのも大事だと思いますので、ぜひともそういった事例の調査研究もしてほしいなと思います。

では、話題をまた皆さんのほうにお返ししたいと思います。いかがでしょうか。

古瀬さん、お願いします。

○古瀬委員

今、けいはんな記念公園でカフェをやってますのと、それから、これは観光ボランティアガイドを含めまして年間で３，０００人ぐらいのお客さんと接してて生の声をいろいろお聞きしてるんですけども、その中で、やっぱり先ほどから出てるイチゴ、イチゴというのは、まだこれに勝る高いブランドになってるものがないという。それ以外のものをとにかく、もっとあれば、ぜひともそれをもっと開発してほしいというところがあるんですけども、それとひっくるめて、立地からいいますとね、お茶の京都、去年もやってますね。宇治茶は直接の生産はないけれども、この宇治茶のあれだけの高いブランドの周辺にあって、やっぱりそれを利用しない手はないと思うんです。だから、別に２次、３次、加工は幾らあってもできるだろうし、たまたま先ほど出てましたイチゴフレーバーティーという、そういう結びつけになったんですけども、そういうものとか、もっと何か新しい何かを開発してもらえれば大変ありがたいとは思いますけども。

それと、先ほどちょっと出てました、旧村のそういう担い手がないという話ですけども、たまたま精華町って、新しく開発地域に移住してこられた方のほうが多いと思うんです。こういう都市、まちっていうのは、そういう人たちは地元をとにかく知りたいという欲求が非常に強くて、我々のメンバーもそうなんですけども、ほとんど7割ぐらいはそういう人たちです、外から来た。ここで観光とか何かとかいっていう人を、交流人口をふやすという場合にぜひとも考えないといけないということは、まずは地元の人たちに、その売ろうとするものを地元の人たちに愛してもらおうと思う。まずそれを考えなければいけない。担い手が少ないとおっしゃってることについて、そういう新しく来た、開発後に来た人たちが幾らでも手を貸すという人がいてるので、先ほどの小学校区単位で自治会運営したらどうやという話も今あったんですけど、そういう、それだけじゃなくて、もっとそこら辺を実行するような何か、というものをやっていったほうが便利かなというふうに思って。

○杉岡座長

いい住民間交流、とりわけ新住民、旧住民、言い方が悪いかわかりませんが、いわゆるニューカマーとオールドカマーとか言われる、そのあたりの交流というものは、今回の地方創生の事業上いかがですか。必要性はもちろん感じていらっしゃると思うのですが、実際、取り組みとしてはどういったメニューがあるんでしょうか。

○大原企画調整課長

今、古瀬委員のほうから、旧村の担い手不足と、開発地の住民の皆様はやはりその地域を知りたいという欲求が多いというお話がありましたけれども、今おっしゃっていただきましたように、やはり精華町のシティプロモーション、要は精華町のＰＲをしていく上で、行政が幾ら精華町のＰＲをいろんなところでしてもやはり限界がありますので、今おっしゃっていただきましたように、まずは地域の方々の、精華町の良さであったり、精華町の魅力であったり、いろんな地域資源もありますけれども、そういった部分をやはり地元の方に知っていただいて、郷土愛といいますか、地域愛と

いいますか、そういったものを育んでいただいて、地域の方々が、まさにそれぞれが精華町のシティプロモーションを担っていただくというのがやはり一番大切なことであるというふうな認識はしておりますので、先ほど来申し上げましたように、精華町外だけではなくて精華町内へのプロモーションというのがやっぱり必要かなという部分はありまして、できる範囲ではありますけれども、そういった取り組みもさせていただいているというような状況でございます。

あと、前段でご質問いただきましたイチゴ以外の売りといいますか、特産品といいますか、そういった部分の開発というのはやはり必要なことであるということで考えておりまして、特に先ほどのイチゴフレーバーティーもそうですし、洛いも焼酎であったりとか、精華町の売りになるような部分を新たに生み出していくという取り組みもやはり必要かというふうに考えておりますので、それについては、すぐにこれをということはなかなか出てきませんけども、いろいろとその辺はチャレンジもしながら、地域に合ったものを生み出せるようなことで引き続き取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○杉岡座長

ちなみに洛いもの焼酎だとかイチゴのフレーバーティーとかでも、例えば観光で来られた６０万人ぐらいの方が買おうと思ったら、どこで買えるのですか。

○大原企画調整課長

洛いも焼酎につきましては、町内の酒屋さん３件と、あとアピタという大手のスーパーでも取り扱いをしていただいておりますので、そちらで購入いただけます。

○杉岡座長

このあたり、福知山も最近まで観光協会でお土産買えず「あそこで買えます、あそこで買えます」という紹介だけで終わっていたんです。しかし、今年から駅前の観光協会で買えるようになりました。

○田尻委員

そうなんですよ。だから、これが駅前で、本当に近いところで、本来だったら、例えばあの駅の通路ですね、あれは精華町の持ち物なんですけども、ああいった場所を活用していただければ、すごくそこで買いやすくなる。そういう意味では、それを活用していただきたいなという。何せ精華の場合、財源いると思うんですけども、宣伝もなしに、きれいな駅前をずっとつくっておられるんですけども、でも僕らからすれば、もうちょっと何かいろんなパンが売ってたりとか、朝食のあれですよね、おにぎり売ってたりとか、そういう観光のやつが売ってないとかね、そういうのがあるとすごく便利いいんですよね。あそこに数万人という人間が一日に乗客するもんですから、一番の売り場としては最高の売り場になります。知っていただくのも最高の場所になっていますので、活用していただきたいなというふうに思っております。

○杉岡座長

あと、ネットで僕、気になってる数字がありまして、これは多分、町のほうも余り把握されてないかもしれませんが、京都府内の本籍地人口を調べてみたんですね。そうすると、実にショッキングだったんですけども、精華町さんの人口が１月現在３万７，５２９人、約４万人弱ですね。一方、本籍地を置いていらっしゃる方って、２万５，３２５人しかないんですよ。北部ではほぼ逆転してます。例えば私が住んでる福知山でいうと、人口は約８万ですけども、本籍人口は約１０万人です。これは何かお墓があるだとか実家があるとか、何かしらご縁があってそのまちに、本籍地は移さずに残してる方なんですね。

この皆さんというのは、実は私はファンになり得る人口だと思って注目してるんです。さっきニューカマーの話がありましたけれども、精華町では引っ越してこられても本籍地は移してないということなんですね。やっぱりこのまちを本当に好きだと、このまちに骨を埋めて、もう親子３代ずっとここで住んでほしいということになれば、多分本籍地に移すんじゃないかと思うんです。もちろん、面倒くさいとかいろいろ理由や背景にいろいろあると思います。ちなみに、これは京田辺もそうなんですけどね、

やはり人口が今ちょっと増えてるまちというのは、同じような現象があります。ちなみに、舞鶴でも、本籍地人口は１０万人超えてます。こういったところにどうアプローチしていくのかということはすごく大事だなと思ってまして、先ほどの新しく来た方が本当に昔から住んでおられる方と交わって、このまちが本当に好きだなとなったときには、いわゆる住民票移すときに多分本籍地も移すんじゃないかなという仮説があるんですよね。なので、実はこういったものが一つのＫＰＩにあらわれない、裏の数字として、実は愛着度が出てるのではないかなと思うところがありまして、コメントはいらないですけど、実は、多分、町役場の中でもあまり共有されてない数字だと思います。

○田尻委員

これは、どうしても新しく推進機構とかおいでになられてますけども、この辺の企業もそうなんですね。これは、やはり例えば東大阪からたくさん要はお越しになっていただくんですけども、精華町の商工会に入っていただいてるのは約４分の１ぐらいの企業さんだけなので、なぜですかってこの間も聞いてたんですけど、やはり東大阪の商工会議所に入ってたら便利。便利って何、どういうことですかと聞くと、やはり海外へ輸出するので、すんなりいく。だから、そこの行政、そこの商工会使ってるほうが便利がいい。ただ、京阪奈というブランドの名前と、人を集めるための利便性と云々考えたときは、京阪奈が便利。ということは、便利がいいまちなんですけども、ここで骨を埋めるかという考えが全くないというふうに聞こえてくるわけですから、そこのところの仕組みをしっかりやっていかなければいけないと思います。

○杉岡座長

多分、町職員の皆さんの中で精華町にお住まいになってる方とそうじゃない方がいらっしゃると思います。今は防災の時代でありますので、町外に住んでいる職員を精華町内に住んでもらえれるよう、自分のまちに住んでもらうという、そんなことも事業としてできると思います。発言だけしておきます。

鹿谷支店長、いかがでしょうか。

○鹿谷委員

京都銀行の鹿谷でございます。先ほど資料説明のときに事務局様のほうからお話がありましたとおり、昨年度、手前ども地元金融機関として精華町様と魅力発信パートナーシップ協定という形で地方創生連携協定を結ばせていただきまして、その後にいろいろな受託業務を受けておりますが、先ほどＲＥＳＡＳの分析のお話がありましたとおり、精華町さんのほうでも、手前どもが分析しましたことに基づきまして今年度いろいろな、例えば農業や地方特産を生かした産業振興であるとか、観光振興施策の提案を今後実現化に向けて行っていくことを検討されておられますので、その辺については時間軸をもう少し長く見ていただいて、行政のほうと産学、いろいろ交えてやっていくべきなのかなというふうには思っております。

先ほどお手元に配らせていただいたこの地方銀行協会資料の中で、１０ページのところの京都銀行の取り組みという中にも、ハッカソンによる地域の魅力発信というページで精華町さんの取り組み事例を載せさせていただいているんですが、これは全国の中でも精華町さんが初めてハッカソンをされたということで、非常に注目を浴びているんですね。このように、やはりいろいろ新しいことへのチャレンジを精華町さんの中では一番されてると思うんですが、今後、このＫＰＩの係数を見させていただいても、すごくうまくいっておられる係数、もう目標値をはるかに超えておられるという部分と、それから、先ほどの観光農園のお話でもあったと思うんですけれども、その辺の、例えばうまくいってる部分とうまくいってない部分に対する取り組みについてどのように評価なさっているのかということを、できたら教えていただきたい。

○杉岡座長

すごく難しい質問ですけども、いかがでしょうか。

○西川企画調整課課長補佐

ＫＰＩの部分というのは、どうしても今伸び悩んでる部分というのはもともと課題

であった部分ということもございますので、中長期的に見ていかないといけない部分もございます。ただ、おっしゃっていただいたみたいに、非常に伸びている数値がございます。その数値に係る部分の施策をうまく伸び悩んでる部分の施策に絡ませて、一緒に引き上げていくような効果が出せるといいのではないかなというふうに考えておりまして、その一つの事例でございますが、例えばＳＮＳのフォロワー数というのは劇的に伸びている部分でございますけれども、この部分で広報キャラクターによるＰＲというのもございますけれども、今、特産品のお話もございましたが、特産品の販売とキャラクターを組み合わせることによる付加価値をつけて販売するという試みを少しやっております。実際のところ効果が上がっておりまして、例えばジャムを３日間で４５０個売り切ったりとか、今度はイチゴフレーバーティーにつきましてもキャラクターのロゴを入れたり、今度はイベントでの販売を試みてみようというふうにも考えておりまして、その辺、一緒に盛り上げていけるような仕組みがつくっていければなというふうに考えております。

○鹿谷委員

ありがとうございます。

○田尻委員

一つだけよろしいですか。

○杉岡座長

どうぞ。

○田尻委員

あのフレーバーティー、すばらしい紅茶つくっていただいたんですけれども、例えばキャンペーン、もしくは来庁者に、町長室へ行かれたとき、これを絶対飲んでいただくとか。私も知り合いの国会議員には全部配りましたけども、もし購入するとなれば、例えば２３０円ぐらいするんですけども、結構高いんですよね。１杯当たり２３０円やったら、これ買ったほうが安いじゃないかというのが事実でございまして、敢

えてあれを試飲とか、飲んでいただくためには、そういうふうに精華町を挙げてあのフレーバーティーを売っていただくために、こういうふうな取り組みも必要であると私は思っておりますので、ぜひそういう取り組みをやっていただきたいなと思います。

○杉岡座長

ちょうど今、西川さんのほうから、ＳＮＳのフォロワー数という話がありましたが、例えば、今全国的に広がりつつありますけども、京都で言えば綾部がいち早く始めたふるさと住民制度というのがあります。要は、本当の住民じゃなく、ファンクラブみたいな形で、１万円払ってもらって、年に３回か４回いろんな特産物をお送りするというモデルです。これだけでもどんどんと地元経済が動いてまいりますし、ファンも離さない戦略ですね。精華町においても、今までも約６，０００人ぐらいのファンの方がついていらっしゃいますし、可能性あると思います。西川さん、感覚的に６，０００フォロワーのうち精華町の方って何人ぐらいいらっしゃいますか。

○西川企画調整課課長補佐

恐らく１割。

○杉岡座長

１割ぐらいでしょうね。

○西川企画調整課課長補佐

はい。

○杉岡座長

多分９割ぐらいは精華町外の方が、精華町あるいは京町セイカちゃんのことを思ってくれて、応援しようと思ってくれてるわけですので、こういった皆さんを離さないことが大事です。まずそこをしっかりとフォローといいますか、先ほどの洛いももそうですし、今のフレーバーティーもそうですし、いろんな形で、イベントに来てもらうだけじゃなくて、お金も落としてもらいたいですしね。2次利用、3次利用でどんどん活用していくということです。そうすると、人口は減っているんだけども、実はふ

るさと住民まで含めていくと増えていることが続く。これはアイディア提供です。

○西川企画調整課課長補佐

そうですね。やっとこの取り組みも今年で５年目になりますけれども、近年は精華町に実際に来ていただいてまち歩きをされて、その状況を自分で実況の映像をつくってニコニコ動画などで流されてる方も多数おられます。また、洛いも焼酎とかを、自分がお酒を飲んでる動画というのを流されてる方もいらっしゃるんですが、それで洛いも焼酎が紹介されたりとか、そういった流れも少しずつ生まれてきておりまして、そういった動画、１万、２万程度の視聴数があるような結構な拡散力があるということもございますので、行政が一方的にＰＲするんではなくて、いわゆる関係人口の方々が自らで拾っていただいて、自らで発信していただくという流れが少しずつ生まれてきてるんではないかなというふうには感じております。

○杉岡座長

精華町で議論するときには、ずっと長らくお住まいの、いわゆる旧住民の方々と、途中から引っ越してこられた新住民の方、もう一つはバーチャルな住民の方がいらっしゃって、この皆さんが交流できるような仕組みづくりをみんなで知恵を出し合ってやっていくと非常におもしろいですね。関係人口と言いましたけども、必ずしも移住定住してもらう必要ないんですよ。常に月に１回は来てくれるような、そしてお金を落としてくれるような、時々移住定住を考えてくれる人が１％から３％ぐらいいれば十分だと思うんですね。そういったような人口をぜひとも戦略的に見てもらえると、多分オリジナルなまちづくりに繋がると思います。

○田尻委員

ご存じのように、今、京都市の観光客、世界一と言われてます、今約８，０００万人。もう言ってる間に１億いくでしょ。それが３０分足らずでここから行けるわけですから、奈良も１５分で行ける立地であると。この立地を考えたときに、今ほとんど京都市内でホテルがもう満杯状態でございまして、泊まるところがまずないんです。

やはり私のまちのほう、条例もありますけども、例えば駅前にビジネスホテルとかそういった宿泊施設があっても、今、けいはんなにも１つありますけども、あそこもほとんど稼働されて泊まることなかなかできないんでね、ひとつまた検討を、考えておられるようですけども、やはり駅前というのはそういう面で非常に観光もできるし、それからビジネスもできる。こう考えたときに、やはり大手が来て、世界的なメジャーの企業来てますけども、宿泊するのに、やっぱり駅に泊まると次の移動がしやすいんですね。ここに泊まっていただくことによって、いろんな食べたり飲んだり遊んだりというようなことも可能になってきますので、そういった面で、やはりもう少し緩和をいただいて、ホテルを考えていただいてもいいかなというふうに私は思っております。

○杉岡座長

もしコメントがあれば。

○大原企画調整課長

先ほどの駅東の話ともちょっとリンクをするんですが、やはりその部分については、町全体としてのいろんなまちづくりの観点からの議論なり検討も必要かなと思いますので、一つの貴重なご意見ということで承って、その辺についてはまた中長期的に検討してまいりたいというふうに考えております。

○杉岡座長

ちなみに舞鶴には来年スーパーホテルが八島商店街の中に入ってきます。福知山にも今年、チェーン店になりますけども、ルートインさんですよね、参入されてきます。ビジネスになることであれば参入されてきますので、魅力的な立地になることは間違いないと思います。

○田尻委員

そうなんですね。だから京都市が、今言いましたように８，０００万人、１億という形ですから、これ北部もそうだし、南部もそうですよね。南部の観光なんて、精華

の予算ほとんどないと思います。であるならば、僕、単独で精華の観光を考えるんではなしに、例えば京田辺、もっと言うなら大和、伊賀も含め、相楽もすばらしい資源がいっぱいあります。こういったところをやはり一緒にやっていくという気風も大事かなというふうに思っておりますので、その辺もご検討いただきたいと思います。

○杉岡座長

お時間も少なくなってまいりました。まだご発言されてない方、ぜひともご発言いただきたいと思っておりますので、田口さん、いかがですか。

○田口委員

すみません、経済産業局から来ておりますので、日ごろこのような会議に出ますと、設備投資をお願いしますとか物づくりの話ばっかりなんですが、実は今、地域未来投資促進法という法律を積極的に推進してまして、お使いいただける施策自体は、例えば大きな企業さんが設備投資をしたら、税制の優遇やっていますとかですね、今まさにおっしゃったようなホテルの誘致であれば、来てくれたホテル自体に、どこの会社のどんな大企業であっても税制の優遇が受けられるような枠組みがあって、それはもう精華町さんが今既にご準備され、ご準備されてるというのは法律の基本のところは押さえてらっしゃいますので、幾らでも誘致ができる状況にあるというようなところで、やっていただきたいなと思います。

ただ、実は自治体さん方が来られて、これで交付金使ってこんなことをやりますというのを、一番最初に来られて、コミケとかニコ動というような単語が出てくることがまず普段ないものですから、何てユニークな自治体なんだろうということと同時に、普段なかなか自治体が届かない人たちに直接届くツールを持ってる、それはすごい強みだと思います。

ただ、正直、今日も私、駅から役所まで歩いて来たのですけど、何でここにおしゃれな、若い、ちょっと変わった子たちがやったお店がないんだろう、私どこでご飯食べたらいいんだろうって、時間が時間でしたのでね、大阪で食べてくるのもつらいの

で、ここまで来て食べようと思って、申しわけないんですが、フードコートでおそば食べててちょっと寂しくなったなというような状況なので、ここによそから来た若い人たちが少しおしゃれなカフェをもし開いてくれたらというところをちょっと思いました。というのは、宇治茶を一番たくさんつくってる市町村が近所にありますよね。そこが、東京から本当に若い元気な子たちが３人４人で来て、新しくカフェを開いて、その人たちが欧米系の方を呼んで観光ツアーをつくったり、ちょっとまちの空気を変えてきてる、こういうものが精華町にも生まれてくれば、その人たちって必ず横でつながっていくので、何かおもしろいクラブのようなものができてくるかなというようなことをぜひご期待申し上げて、また別途お手伝いできることがあったら何なりとおっしゃってください。ありがとうございました。

○大原企画調整課長

ありがとうございます。

○杉岡座長

カフェについてぜひコメントがあれば。

○大原企画調整課長

すみません、せっかくお昼来ていただいたのに食べるとこがなくて、ちょっと非常に恐縮です。

○田口委員

私が気づかなかっただけかも、また教えてください。

○大原企画調整課長

今おっしゃっていただきましたように、やはり若い人たち向けと言いますか、そういうお店といいますか、若い人たちが行きたいなと言っていただけるような、そういうおしゃれなお店がずらっと並んでるようなまちというのは、非常に魅力があるんです。非常に憧れがありますので、そういった部分でやはり随分、それもなかなかいきなりはいきませんけども、そういうのが１つ２つとできてくれば、それが呼び水にな

ってくる部分もあるかと思いますので、そういった部分も念頭に置きながら、今後いろんな部分での施策展開を図っていく必要があるかなというふうに考えております。

○杉岡座長

民による公共ですね。施策誘導になりますので、そういった部分をしっかりと検討いただきたいと思います。

○田尻委員

私ども商工会は、新しく起業していただくに当たってビジネスサポートという形で応援しておりますので、ぜひ起業される方、商工会を紹介いただいて、新しい起業をしていただくというチャンスをつくっていただきたいなと思っております。

○杉岡座長

中村先生、いかがですか。

○中村副座長

ありがとうございます。まずは、このＫＰＩですね、私、何年かこの会議に参加させていただいておりまして、確実な進展が見られるということで、本当にすばらしいことだと思っております。いろいろとまだ達成されていないところについてご意見出ましたけれども、例えばきょうの駅前のお話とかホテルのお話とか、私も前回の会議で全く同意見で、先ほどのご指摘ともほぼ同じようなことを私も発言させていただきまして、今お預かりいただいてる最中かなと思っております。やはりいろんな人が来るというのは、一つはアクセスで、住んでいただくためには、そういったまちづくりだとか福祉でありますとか、私の分野からいきますと、女性労働であると保育の施設ですね。例えば毎年、住んでいるところなどで人口流入があるところは保育関係が無料であるとか、そういったことが呼び水になって、非常に住みたいということで流入があるといった点があります。こういったホテルは、先ほど田尻委員のお話もあったように、京都市で本当にホテルがないと、出張でも観光でも泊まることができないと。こちらは本当に近くにございますので、ぜひそういった助成金を、観光施策促進法で

ありますとか税制の優遇措置をお使いいただいて、本当にご検討いただけるのであれば、それがかえって近道かもしれません。

それと、近隣に幾つも大学がありますので、例えばそういった促進販売のビジネスのコンテストですね、学生はなかなかインセンティブがないと動きませんので、ビジネスコンテストで、ここで優勝するとこういう特典があるよとか、そういうものがあれば、起業につながるような、そういったプランは出すことができます。それからハッカソンのお話がありましたけれども、大学のほうに来ていただいて、例えばお昼休みであるとかセミナーであるとかで、精華町はこういう取り組みをしているのだと、ハッカソンもあるので、もっともっと多くの参加者を、ということであれば、今１年生などの就業意識なんかも聞いておりますけれども、やはりゲームとかプログラミングとか、そういった方向に進みたいという学生、理工学部であれば、そうですね、私が聞いた中でも９割近いですね、９割近くがそういう意識を持っておりますので、何らかのことができるのではないかというふうに期待しております。

余り時間もありませんが、台湾のほうからのお客様がどういった感想をお持ちで、どういう提携を今後できるのかとか、あるいは姉妹都市でありますオクラホマのほうのノーマン市ですか、そちらとの提携でもう少し何か納得できることがあればと思いますし、そういったところに近隣の大学生が関与していって何かお手伝いができるようなことがあれば、それもいいのではないかと。

フレーバーティーとか宇治茶のお話も出ておりましたけれども、例えば大学の生協の中でそういったものを置くとか、あるいはサテライトで京都市の駅のあたりですね、前にもそのお話を少しさせていただいてはおりましたけれども、そういった生協のサテライト地点ということで、こちらまで来ていただくのも一つですけれども、日本全国に置いていただければ、いいものは必ず売れると思うんですね。例えばこの間、学生なんか、暑いのでアイスクリームを手にとります。私なんかは１００円程度のものを見るんですが、うちの学生は、３００円近いアイスクリームでも、とんとんとんと、

とっていくんですね。だから本当にいいというものがあれば、先ほど２００幾らするというお話でしたけれども、気に入ったものであれば結構購入する。それがもし生協とか、大学生、数が多いので、そういったところでもし何かがあれば、これは希望的観測ですけれども、そういったことも可能かもしれません。そういったところです。ありがとうございます。

○杉岡座長

ちょっと私、今、先生のお話聞きながら、ちょっと数字心配して調べてみると、ちょっとやっぱり的中してしまったんですが、精華町、出生率低いんですよね、１．３３です。福知山は１．９６です。京都府ナンバーワンですし、関西２位です。全国９位なんですよね。もちろんこれ原因はいろいろと複数ありますので１つではないんですけれども、住みやすくて人口があるという話もある一方で、なかなか数字としては表れていないというのがあるんじゃないのかと。魅力とか、子供を産み育てやすいかどうかですね。そのあたりについて、ぜひともコメントを一ついただきたいと思います。あとインバウンドについては、今一番多いのは台湾ですよね、中国の次は。それも含めて、少し観光戦略の中でのインバウンドの位置づけという話をちょっとコメントいただければ。

○西川企画調整課課長補佐

それでは、その台湾の部分の取り組みについてでございますけれども、一つは、両方向あるんですけれども、こちらからＰＲするという部分と、来ていただくという部分があるかと思うんですが、一つは、去年やった取り組みとしまして、台湾の有名なブロガーさんに実際に来ていただきまして、精華町のまちなかを実際に歩いていただいて、本当に魅力があるのかどうかというのも含めて見ていただいたんですけれども、結論としましては、台湾の個人旅行者の方々というのは、そろそろ大都市には飽きてきてるんだというところがございます。そういった部分で、そういう日本の古い町並みであるとか珍しい建物みたいなのを見たいというのが次の段階として来るという意

味では、精華町は結構魅力的ではないかという部分で、実際に写真撮っていただいて、実際に台湾人向けのブログで発表されてると。かなりの視聴もあるという状態でございます。ですので、古い町並みもございますし、学研都市である先進的な建築物ですね、建築物めぐりというのが台湾の中で結構はやってるということもございまして、その辺を次の段階で取り組んでいければ一つあるかなと。

それからもう一つは、サブカルチャーとの絡みもございますが、台湾人のコスプレイヤーの方で、フォロワーさんが１０万人以上いるような方がいらっしゃいまして、国際的なコスプレイヤーさん、その方に来ていただいて、実際にまちを歩いていただいてＳＮＳで発信していただくと、アクセス数でいうと、もうはかり知れないような人たちに見ていただいてるような状態もございまして、例えばそういう有名なコスプレイヤーさんと一緒に行く精華町ツアーみたいなものを台湾の旅行会社さんで企画していただいて、まず精華町に来ていただいて、精華町で写真撮っていただいて、あとは京都市内とか奈良市内に旅行を展開していただくような観光プランもつくれるんではないかというふうな感触を持って、あとは実際にそういう観光プランとかが開発できるかどうかというような段階であると思います。

○杉岡座長

子育て分野いかがでしょう。

○大原企画調整課長

先ほど出生率のお話もあって、精華町１．３３ということでちょっと低いというようなお話がありましたけども、精華町は、実は今から５０年ほど前に、こどもを守る町宣言というのをしてまして、子供を育む、育てるという部分では非常に力を入れてきたという、ちょっとそういう自負もあるんですけれども、例えば精華町に保育所というのは５園あるんですけれども、うち直営の保育所が３園ですね、うち２つは公設民営ということで計５園あるんですけども、精華町ではできるだけ待機児童を出さないようにということで、待機児童ゼロということを目標に掲げて、そういった行政を

進めてきているという部分もありますし、例えばそれ以外にも小規模な保育所でありましたり、あるいは病児・病後児保育とか、そういった部分の保育の取り組みであったりとかいうことにも力を入れてやってきている部分があります。ただ、出生率を上げていくという部分にはなかなか直結は現実としてはしてないんですけれども、そういった取り組みもしながら、その一方では、例えば教育の部分で、先ほど来、この施設もそうなんですけれども、「科学のまちの子どもたちプロジェクト」ということで、学研都市のこういう立地を生かして、学研都市を生かした教育といいますか、そういった部分でいろんな子供向けの体験プログラムをいろいろと充実をさせてきている部分もありますし、特に、例えば学力テストの関係でいきましても、京都府あるいは全国平均と比べても非常に全体的な学力が備わっているとかいう部分で、いろいろとそういう取り組みはしてるんですが、いかんせん、出生率を数字として上げていくという部分には、なかなか直結していないというのが実態としてあるという状況です。

○杉岡座長

お待たせしました。常山委員、最後にお願いします。

○常山委員

手短に３つ申し上げます。感想ですけどね、一点目はここ、なんですよ。ようやくできて、推進機構でもこの会議の中でも何度も申し上げてましたけれども、せっかくこの施設をもっと地域の人に、子供が使えるところにと申し上げてて、ようやくできたなと思うので、ジュニロボもこの間ここでやっていたし、NICTの研究員さんも個人的に勉強しに来られてたんですけれども、先ほど町長がおっしゃっていた精華子ども大学、あれをちょっと継続的に、中身全然わかんないんだけど、継続的にして、なおかつ精華町の子供だけじゃなくて、このエリアの子供たちがみんな入ってこれるような事業に育てていただきたいなというのが１点です。

それと、ＫＰＩの関係でちょっと気になったんですけども、２０番目の文化フェスティバル出展・出演者数というのは、これは数字的に低いんですけど、文化というの

は何かという定義は非常に難しいんでしょうけども、今年の３月かな、精華の東光小学校のブラスバンドね、あれを聞いて私、感動したんですよ。びっくりするぐらい。あれはすごい力ですよね。あれだけの活動ができる基盤がやっぱりあるんだから、ああいうふうな伸ばし方をきちっと考えていただければいいのかなと思ったのと、今、最後の出生率の話ですけども、せっかくここに同志社大学の赤ちゃん学研究センターがあるので、それで言うと木津川市がちょっと連携した保育園の調査なんか始めてますよね。出生率が上がることに直接結びつくかどうかわかりませんけど、そういうふうなやり方も考えていただいたらいいのかなと思ったので、以上、３つです。

○杉岡座長

ありがとうございます。

何かございますでしょうか。

○大原企画調整課長

今、幾つかコメントいただきまして、まず子供向けの取り組みですね、科学のまちの子どもたちプロジェクト等々、そういった子供向けのいろんな取り組みにつきましては、この施設がせっかくできましたので、これをやはりできるだけ有効に活用をする中で、いろんな、今おっしゃっていただいたように精華町だけでなく、このけいはんな学研都市全体の子供さんに対していろんな科学に触れ、親しめるような機会というものを、こういったところを活用しながらどんどんと提供をしていきたいなということは考えております。

もう一つおっしゃっていただきました東光小学校のブラスバンド、アンサンブルクラブですかね、そちらは非常に技術的にも高いということ、いろんなコンテストでも入賞されてるということでありますので、その地域の文化といいますか、できるだけ活用しながら、この精華町の文化を非常に高めていくということも一方でやっていきたいなと考えております。

あと、同志社大学さんの赤ちゃん学センターとの連携の部分ですが、そこら辺につ

きましては、実は２市１町でつくっておりますけいはんな学研都市の活性化促進協議会という団体がありまして、既に数年前から赤ちゃん学センターとタイアップをいたしまして、いろんな連続した講座を開催をさせていただいて、２市１町の方々を中心に、赤ちゃん学のいろんな座学等もひっくるめてですけれども、いろいろと勉強をしていただく機会なども提供しておりますので、そういった部分も今後継続をしながらやっていきたいと考えております。

○杉岡座長

それでは、皆様、ちょっとお時間がそろそろ、よろしいでしょうか。

○田尻委員

ちょっとよろしいか、１つだけ、すみません。

○杉岡座長

どうぞ。

○田尻委員

私ばっかりこんなに言ってるんですけども、これは精華町に腰がけにならないために、誇りを持ってもらうことが一番大事。まちが好きであり、まちを誇れるまち、この一つとしてですね、５００年前に、ご存じのように山城国一揆がございました。山城国は、ご存じのように自分たちで自治をした経過があります。数年ではございましたけども、そのために最後、自分たちの権利を守るために血を流して戦った経過があります。最後は、ここの南山城、稲屋妻城ですか、北稲の上でございますけども、あそこで終焉するわけでございますが、要は、フランス革命、それからアメリカの独立まで、その経緯の前ですね、血を流して自分たちの権利を守ったという経緯があるので、これをぜひ使っていただきたい。教育の場のことですし、要は自由のために戦った経緯ですね。やはり精華町が世界に発信していただきたいと私は思っております。これはすごく精華町の誇りにつながってくるというふうに私は思っておりますので、ぜひこのことを精華町から世界に発信していただくことは、ここでの最後の話にさせ

ていただきたいと思います。以上でございます。

○杉岡座長

ありがとうございます。

すみません、それではお時間が参りました。私の進行がまずくて、大変申しわけなかったんですが、最後少しだけまとめの発言をさせていただきまして事務局にお返ししようと思います。

今、最後は田尻委員からございましたとおり、あと、また田口さんからいただきましたとおり、このまちの本当に特色というものがいろいろと、これは初めて知り得た、つまり発信とチャレンジをするまちだと思うんですね。このようなまちってなかなか、私、いろんなまちとかかわってますけども少ないと思います。これほどとがった、つまり唯一無二の発信されてるまち、この強みをやっぱり生かして、それで今だけじゃなくて、歴史、物語ですね、山城国一揆という話もございました。私が住んでるまちでいうならば、今、明智光秀の大河ドラマがまたありましたが、それも含めて発信を、しかも日本国内のみならず、英語や韓国語、中国語、台湾も含めた、そういった多言語の発信を含めて、引き続きこの発信とチャレンジを続けていただきたいというのが１つ目であります。

２つ目は、今日、文化の話が先ほどの常山さんのほうからもありましたとおり、やはり関西、筑波の学研都市との違いは文化がついてるかどうかです。この中でおもしろい指標がありますのは、これはリチャード・フロリダやジェイン・ジェイコブズという学者が言い始めたのが文化経済という話ですね。この中ではボヘミアン指数という指数があって、要は、これは文化による経済。どれだけまちの中に文化的な人がいるかという、そういった指数があります。その中の一つがゲイ指数というのがあって、最近ＬＧＢＴなんて言葉がありますけども、アメリカでいうとサンフランシスコが一番ゲイが多いと。しかし、ゲイが多いまちが一番いろんな人が集まって経済が実は豊かになってると、こんなことが本で書かれているんですけれども、もしかすると、Ｌ

ＧＢＴは横に置いて、精華町もサブカルも含めて文化人が集まる、住むかどうかは別として、そういった魅力的なまちだと思うんですね。これはなかなか北部にはない発信でございます。ぜひ、積極的な発信をお願いできればと思います。

それと、このような文化と経済、特に先ほどイチゴの話もありましたとおり、それがお金になってないのが非常に残念です。京都市の話でございましたけども、京都市の今観光消費額は１人２万円です。天橋立３，３００円です。舞鶴１，７００円、福知山は１，０００円を切っているんです。これはもう全然桁が違います。なので、１人当たりにどれだけ付加価値を上げてお金を落としてもらうのか。数は最悪、増えなくてもいいんです。１人当たり消費額が増えたらいいんです。なので、２３０円のものを４６０円で売ってもいいかもしれません。それを含めて、カフェも含めてお金を落としてもらう仕組みが大切です。そして、民が頑張ってもらうためのプラットフォームづくりだと思いますので、ぜひともご検討をお願いしたい。これが２つ目です。

３つ目は、交流という話が今日冒頭ございましたとおり、旧住民の皆さんと新住民のみならず、今日見えてきた、やはり台湾の皆さんとかという国外の皆さんとの交流や、インターネットのバーチャルな人口との交流ですね。自治体のSNSの中でおそらくこんなに外部のフォロワーがあるのは多分精華町ぐらいだと思います、府内でいうと。このフォローをぜひ生かしてほしい。だから原課の担当者との関係性だけではなく、また精華町だけとの関係性だけでもなく、住民の皆さんとどうやってつながるかということが、これ多分、住民の皆さんの宿題なんですよね。役所がやってるからいいわではなくて、自分たちがどういうふうにかかわれるのかなということもぜひとも考えていただきたい。そこには多分、子供たちが接する機会が大事なんですね。２１世紀美術館でもそうなんです、石川のですね。小さいころから場に集まることによって美術に触れて、大人になったときにそれが文化経済につながっていくということをやってのけていらっしゃいます。ぜひとも、この拠点がそのような、京町セイカちゃんとデビューする、あるいは海外の皆さんと初めて出会う、住民の皆さん同士の交流

で倍になる私は可能性というのを感じましたので、ぜひともこの場を生かしていただきながら、精華町さんの強みをさらに磨いていただきたいということを申し上げて、まとめにかえたいなと思います。

最後に１点だけ、お願いがあります。地方創生のページが、町のホームページにはないんですね。検索すると議事録しか出てこないんですよ。なので、地方創生のコンテンツの充実をお願いします。コンテンツツーリズムの中ではちょっと弱過ぎる部分がありますので。また、議事録も、ただ全部アップするだけでは、５４ページもあるんです。これは誰も見ません。私も全部見ようとは思いません。なので、せめて概要版ぐらいお作りいただくと良いかと。恐らくそのまま逐語録で掲載しても誰も見てくれませんので、概要だけ伝わるようなペーパーをぜひともお願いしたいと思います。これは発信というか、受信側の立場としてちょっと気づきましたので、あわせて発言させていただきました。

すみません、１０分ほど超過してしまいました。おわび申し上げつつ、事務局にマイクをお渡ししたいと思います。どうぞ。

○大原企画調整課長

どうもありがとうございました。

それでは、次の次第の５番のほうに移ってまいりたいと思います。事務連絡ということでございます。

本日の会議では、委員の皆様から本当に貴重なご意見あるいはご提案などを頂戴をいたしました。本日いただきました内容を参考にさせていただきながら、地域創生の取り組みをさらに進めてまいりますとともに、意見交換の冒頭にも申し上げましたように、本日の会議の内容につきましては、議事録のほうができ上がり次第、また皆様のほうにも確認をいただきまして、ＫＰＩの進捗状況などの資料とあわせまして町のホームページ上で公開をしてまいりたいと考えています。

また、その際、杉岡先生からおっしゃっていただきましたように、概要版といいま

すか、できるだけ簡潔にまとめたような部分もあわせて検討してまいりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

事務局からの連絡につきましては以上でございますが、皆様方のほうから何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ないようでしたら、以上をもちまして平成３０年度の精華町まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会とさせていただきます。

本日は長時間、誠にありがとうございました。